



# 暮らし

## Vol.2

「2003年のとうろうヒースマーク」(今年8月6日、中央公園にて)右がSHUさん、左がRINさん。たいていなのが西アフリカの太鼓、ジェン。西アフリカの手作り楽器です。

平和に折りを込め、前で踊っているのは、コタリカから来た姉妹、MEIANIEさんとRINさん。

自分らしく豊かに、でもちょっとぴりこだわって……。ついでにまわりのみんなも巻き込んでゆつくりたつぷり楽しんじゃおう！そんな広島でスローライフを楽しんでいる人を毎回、紹介します！今回は、素朴な楽器で風の声、大地の歌を奏で、私たちが原始の森に誘ってくれるSAYANの皆さんをご紹介します。

SAYANは、アフリカの民族音楽にアジアンテイストを加えた曲を作り、演奏している空想民族音楽グループ。「空想民族音楽」というのは、想像上の民族の生活イメージから曲が生まれるということに名付けられました。結成は平成7年(1995年)10月。きっかけは西アフリカの民族音楽奏者マディ・ケイタさんと出会い、その音楽観に強く影響を受けたこと。マディさんは、木にヤギの皮を張って作る素朴な太鼓、ジェンベの名人。ジェンベは木とヤギの命をいたって作られた楽器で、それを演奏する人と木やヤギを生み出した大自然とをつなぐものと考えられています。リーダーのSHUさんもジェンベをはじめとして、このような自然の生命をいたって作られたシンプルな楽器たちを奏で、風や雨、森やそとで暮らす人々など、自然の中に生きるあらゆるものを音を紡ぎ出したいと活動を開始しました。

SAYANのもう一人のメンバーは、SHUさんの妻・RINさん。初めは、ステージに立つのが恥ずかしかったそうですが、次第に、自然を体現したSAYANの音に包まれることに喜びを感じるようになりました。

ライブの中で、聴衆と演奏者が一体となって声を出す場面があります。各自好きな音程で「あー」という声を出し、長く伸ばします。多層な大勢の音が重なりつと



ばします。そこにみんなで手をたたき、雨の音を降らせます。全員で一緒に自然を体現し、心が解き放たれる瞬間を体験できることが喜びだと、参加した人たちは言います。

自然と調和して、生きる喜びを音楽で表現するSAYAN。「あらゆるものが等しく支え合って共に生きている世界には、争いがない。そんな世界にあこがれます」とSHUさん。SAYANの優しい音楽は、今日もどこかで息づいています。



東広島市高屋西小学校で、子どもたちと一緒に参加して作り上げたライブアフリカの民族楽器、親指ピアノとおしゃべり太鼓に声を合わせて

SHUさんがデザインしたマンホールの蓋。可部の広島銀行前などに設置され、豊かなまちづくりに一役買っています



台湾の友人たちと地盤被災地を巡回(平成12年11月)台湾中部での支援活動(コンサート)の様子

「広島から世界への写真展『平和への祈り』(今年8月9日、旧日銀にて)左端がRINさんの妹、真知子さん。音楽が大好きでいつも一緒にステージに上がります

# らしく



広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

タイトルの「豊穰号」は、実り豊かな人生や市民社会をイメージしています

## 2 ビビッとしくくに

地域とともにあゆむ  
草津まちづくりの会  
里山あーと村

知っていますか? 身体障害者補助犬法

広島ハーネスの会  
北崎美枝子さん&ブラームスくん  
広島の盲導犬を応援する有志の会  
そごう広島店

## 9 おもしろPスポット

美術館で過ごす芸術の秋

## 10 おもしろPレポート

障害者雇用と公益信託創設 桐原容器工業所

## 12 よりみちデポ

住民と地域をつなぐ接着剤・沼田公民館

## 14 らしくサロン

広島の元気をつくる会社、  
社会貢献で頑張ってます!

## 18 達人図鑑

動物介在活動 NPO E's  
トンボ愛好家 鍵本文吾さん

## 20 Hキャンパス

エル・ネット・オープンカレッジ

## 22 らしくCafé

生涯学習とまちづくり

## 23 らしく情報の森

## 27 プラザ通信

てくてく特派員と行く

## 30 街道散歩

八幡川ウォーキング 原田橋～新郡橋



オミナエシ(女郎花)

ヘレニウム イヌア

ワレモコウ(昔ホト)

マトリカリア

表紙タイトル「花籠と乙女」  
監修/NPOセトラひろしま 橋本真知子さん  
撮影/田中三輝夫 モデル/井上薫

自分で情報発信する魅力をぜひ知ってもらいたい。生きる価値がすぐ上がる気がしますよ!



IT博物館を発案した 山根政則さん(71)



草津公民館に設けられた世界「小さい博物館」  
「1000年歴史草津まちづくり博物館」

IT博物館を発案した山根政則さん(71)の参考資料「草津まちガイドりふれ」を作成。  
さらに活動を続けるうちに、旧家が壊されたり、昔の歴史をよく知っている古老が亡くなったことを聞いて、「このままでは草津の歴史資料が消えてしまう。何とか保存する方法はないか」と、草津の歴史をパソコンに保存するこ

Information

草津まちづくりの会(代表 宮川 秋三)  
E-mail yaman@urban.ne.jp (山根 政則)



町の魅力に惹かれ、広場づくりに携わった広島工業大学の学生。  
左から多賀公一さん(21)、葛島伸一さん(22)、近藤全龍さん(21)



生まれ変わった、旧家の基礎に使った石

「交流広場」を拠点にまちづくりが広がります。手前が御幸川



町の風情と豊かな人情を味わえる草津町

とを発案。多くの家庭で使わなくなったパソコンを集めて組み立て直し、草津公民館に世界「小さい博物館」、「1000年歴史草津まちづくり博物館」を立ち上げました。これを各家庭でも活用できるようにCD-ROM化、さらに今後は、このIT博物館方式を歴史保存に役立つ良い方法と考える全国の関係者に向け、CDの作り方やノウハウをホームページで全国に紹介していく予定だそうです。



この中に草津の歴史が詰まっている

今年8月23日に催されたオープンミュージアムで、地元酒造・小泉本店内に設けられた「博物館」



ビビッとアンテナを張り巡らせている人は、いつもvividに(イキイキと)生きています。そんな方々のchic(粋)な活動をご紹介しますこのコーナー。さあ、あなたもビビッと、しっくに暮らしてみませんか?

人生の大半を過ごした草津を、みんなで“おいそりや、わっしょい”とみこしを担ぐように、盛り立てていきたい



代表の宮川秋三さん(72)



「地域とともにあゆむ」地域住民と参加者が、地域のもつ魅力づくりに力を合わせてあゆんでいる…。そんな元気あふれる活動を紹介します。

歴史とともにあゆむ  
草津まちづくりの会(西区)

町全体がアート・草津まち

江戸時代から西国街道沿いの漁村として栄え、今も芸術的な鏡絵が残る白壁、うだつや格子戸など、町屋の風情を残す西区の草津町。

平成10年(1998年)8月、全国的にも有名だった幕末からの老舗「大石餅店」が解体されることを聞きつけた、地元建築家下田卓夫さん(51)が、地元の有志に呼び掛け、店で最後の餅つきを開催しました。それをきっかけに、歴史と文化資源を生かしたまちづくりに関心がある人が集まり、「草津のまちを愛する会・草津まちづくりの会」が生まれました。

みんなで担ぐ町づくり

会では、草津の町の良さを地区内外の人に知ってもらおうと、さまざまなイベントを開催してきました。

町を流れる御幸川で環境学習を兼ね、子どもたちと一緒に「河川清掃や源流体験活動」、新年をお寺めぐりで祝う「除夜の鐘つきラリー」、また、毎年8月には、地域全体を博物館に見立てる「草津まち・オープンミュージアム」など、地元の町並みを存分に生かしています。

その活動が認められ、今年6月、公益信託広島市まちづくり活動支援基金(ふじ)の助成も受けました。

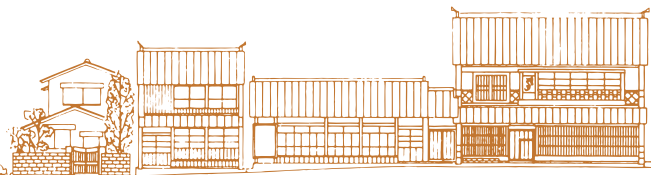
世界「小さい」まちづくり博物館

草津まちづくりの会には草津まちガイドクラブがあり、1時間と2時間のコースに分けて、町の旧跡を訪ねるガイド活動をしています。

そのコースに平成11年(1999年)参加した山根政則さんは、草津の魅力に感動し、それ以来活動メンバーに加わりました。ソフト会社を興したことがある山根さんは、その専門性を生かすリーダーとなって、昨年、ガイドク



町を散策すると、至る所に見られる左官アート「鏡絵」





あーと村は何でも手づくり。インストラクターのおかげ



木の皮むき。ログハウスの材料に



「森のジャズライブ2003」  
Accompri (アカンプリ) の演奏に包まれて



そば打ちの練習。栽培や製粉にもこだわっている

# 自然とともにあゆむ 里山あーと村(安芸区)

## 自然に触れる週末

安芸区阿戸町の牛ヶ谷を進むと、ところどころに棚田、水車、小屋屋が目に入り、森へとたどり着きます。そこは、人々の笑い声が聞こえてくる手づくりの温かい村、里山あーと村。

里山とは、人の手が加わった身近な自然(森や田畑)のこと。牛ヶ谷の里山は、昭和20年代まで人が手入れし、炭づくりも行われていました。しかし、人々のライフスタイルの変化とともに里山からは離れ、荒れるようになりまし。平成8年(1996年)から、地元住民と市民と行政が試行錯誤をしながら荒れた里山に少しずつ手を入れ、平成13年(2001年)からは「里山あーと村」として本格的に活動を開始しま

## 垣根を超えた仲間たち

あーと村は、地元阿戸町の住民、阿戸以外から参加している市民、広島市の三者が協働して運営しています。地元参加者で「村民」を指導するインストラクターは現在21人。農業や建築などさまざまな分野のインストラクターがいて、野菜の作り方や森の手入れなど里山に関するあらゆることを指導しています。参加市民の組織「里山の会」は平成13年(2001年)にできました。週末にあーと村に通って

は、思い思いの活動をしています。東区から参加する牛田小学校4年生小田将大くんは、「どれでも参加したいんだ、自由だから。僕は子ども向



け以外のにも参加してるよ」。参加者の年齢は幼児から80歳代まで幅広く、その交流もまた魅力のひとつ。

## 楽しみながら里山づくり

あーと村では、誰もが参加できる合同行事を開催。毎春の山菜まつりでは、里山に自生する山菜の採集、調理、試食を行います。また5月には棚田で田植えやサツマイモ植えを、10月には稲刈りやきのこ狩り、11月には採れた作物で収穫祭を開きます。

中でも、今年で3回目を迎えた森のジャズライブは、最もたくさんの方が集まるイベントです。今年8月24日に開催され、400人の聴衆でにぎわいました。参加者は、ジャズライブを通じて、手入れされた森がとても気持ちの良い空間であることに気が付いたそうです。このジャズライブは、村民と一般応募のスタッフが中心となって企画し、会場

申込、連絡先は…  
Information  
里山あーと村(事務局)  
安芸区船越南3-4-36 安芸区役所農林課内  
TEL 082-822-3131 FAX 082-822-8069



放置されてうっそうとしたアカマツ林を間伐して、ジャズライブの会場づくり

づくりや当日の運営はみんなの力でいきます。驚くほどの団結力です。この他にも「この指止まれ」方式で始まったそばづくり、共同菜園、森づくり、ログハウスづくり、生きもの観察など参加者主体の活動が活発に行われています。里山あーと村は、農林業体験を通じて里山を再生する事業でもあります。同時に地域づくり事業でもあります。あーと村の週末は、みんなの笑顔でいっぱいです。

## 里山あーと村 今年の活動スケジュール(予定) \*参加は事務局までご連絡を。

月	合同行事	農		森	施設 ログハウス	あーと村 きつず	自然観察 (ビオトープ)
		そばの会	共同農園				
10月	12日 稲刈り&きのこ狩り	~開花、結実~	5日 野菜講習会	10日 学校林水辺の森除伐	26日 土台づくり	12日 稲刈りほか	26日 生きもの観察
11月	16日 収穫祭	2日 収穫 16日 脱穀	2日 野菜講習会	2日 水辺の森除伐	9日 木材加工		16日 池づくり
12月	21日 餅つき&忘年会	7日 製粉 14日 そばうち	7日 野菜講習会	14日 水辺の環境整備	14日 木材加工	7日 クラフトほか	21日 観察&池づくり
随時	炭焼き、環境整備 など						



地元の自信作、水車が出迎えてくれる



あーと村きつずの子どもたち。森の落ち葉を集めてレンコン畑の肥料に



荒れた棚田を田んぼとして復元

自分で作った作物の料理は格別においしい